

ばかむこ

ざっとむかし、あるところに、二、三里ほどはなっちゃ村から、嫁をもらったばかなむこがいたんだと。

ある日、ばかむこが、おっかあに

「きょうは陽気がいいから、これを嫁げさ届けてこ」
っていつけらっちえ届けに行くことになったと。

よめげに着いて

「おっかあがよこしたから、つかっておくれ」

って品物を出したと。もんぺをつくるきれでもあったべか。

よめげでは

「もらってばっかですまねない。」

「むこどん、よくきてくっちゃんない。」

「うめえものでもこっつあすっから、お茶でも飲んでまっちでおくれ。」

って、喜んで迎えてくっちゃんと。それからダンゴをつくって

「こういものつくったから、腹いっぺえ食べなんしょ」
ってだしたと。

ばかむこは、それまでダンゴを食ったことも見たこともねがったんだと。

「すぐうめえ。こんなうめえ食いものがあつたのか。くつたこともねえ。」

ってよろこんでこっつあになつたんだと。しばらくこっつあになつて帰るときに、

「このうめえものは、何つていうんだい。」
って聞いたと。嫁のおっかあは、

「これは、ダンゴつていうんだぞい。くつたことがねえのかい」

って教えたんだと。

ばかむこは、わけさ帰つてからつくつてもらうべと、忘んにえように

「ダンゴ、ダンゴ、ダンゴ…」

ってゆいながら帰つていったと。

途中のちっちゃい堀をわたつたとき

「ドッコイショ」

って、とびこえたんだと。そのとたんに「ダンゴ、ダンゴ、ダンゴ…」が「ドッコイショ、ドッコイショ…」にかわつ